

# 上伊那生徒指導研究会 会報

平成31年  
3月7日発行  
上伊那  
生徒指導研究会  
会報担当  
鈴木 利哉

「生徒指導って楽しい？」

会長 加藤 敬一



本年度、本校で生徒指導事案があり、対応したださった若い先生に「生徒指導って楽しいでしょ？」と聞きました。すると、その先生より先に「近くにいた別の先生が「えー生徒指導って楽しいですか？」（楽しいわけではないじゃん！何言ってるの？）という表情でつぶやきました。」

この一言から「生徒指導って今現在でも、様々な概念の相違があるんだな。今年の研修会の反省にもあがっていたなあ。」という思いが脳裏を駆け巡りました。

私は、ずいぶん前に、生徒指導で大学に内地留学をしました。その時の研

究テーマのひとつに「生徒指導とは何か？」をあげ、自分なりに追究しました。大学の学生数百人に「あなたの考える生徒指導のイメージはなんですか？」「またそのようなイメージを持つに至った出来事は何か？」というものでしたが、「生徒指導は威圧的・権威的・暴力的なイメージ」「そのようなイメージを持つに至った出来事を中学・高校で経験している。」という回答が圧倒的に多かったです。

これは、多くの生徒にとっては、生徒指導とはほとんど高圧的に行う生活指導であったということなのでしょう。昔の大学には、生徒指導という単位がなく、学生も履修していませんでした。これも関係しているのでしょうか。私の研究のまとめは、「生徒指導とは、生徒相談等を手段とした児童生徒理解を中核としてすべての児童生徒が前向きに自己実現できるように支援するもので

ある！」というものでした。

本校で、あるクラスが二年の時、女子の一連のトラブルがあり、ある生徒が孤立状態になりました。生徒指導主事と担任と私で、いじめと認識して感情的になっていく保護者と面談を重ね、支援を続けました。その後、学級がかなり安定し、授業でも楽しそうに学び合っている姿がありました。三年になり当事者の女子たちが「私は、このクラスが世界一好きです。」と文化祭で発表したり、前期選抜の面接で「クラスのすばらしさが三年間の一番の思い出です。」と言ったりする場面に出会うと、やっぱり心の底から「生徒指導は楽しい！」と思ってしまう私は間違っているのでしょうか？

不易なるテーマはやっぱり「児童生徒理解」です。苦しんでいる子どもを救うには寄り添いながら理解を深め、手だてを模索しながら支援していくしかないのですから。

このテーマの下、会員の皆様、現場の先生方と共に悩み学び合い、高め合える場としての本会の存在価値があれば、これ以上の喜びはありません。今

年は、秋の研修には郡内各高校にも声がけをし、参加をしてくださった先生もいます。来年度は夏の研修（愛着障害）に幼稚園や保育園の先生方にも声をかけたらどうでしょうか。

子どもたちの笑顔のために今こそ団結しつつ学んでいこうではありませんか。

最後になりますが、本会運営に御尽力くださいました事務局各係はじめ全会員及び本会に協力くださった皆様全員に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

一年間の活動を振り返って

事務局 眞島 寿浩

五月十八日（金）「子どもに寄り添った児童生徒の理解・支援はどうあったらよいか」を研究テーマに、本年度の生徒指導研究会の活動が始まりました。この研究テーマは、本研究会が発足して以来ずっと大切にできています。生徒指導Ⅱ問題行動に対する指導ととらえられがちですが、本研

究会は「子どもの姿、行動、言葉など子どものありのままをどう受け止め、どう理解して支援につなげていくか。」ということが大切にされてきました。本年度は昨年度に引き続き、先生方が日頃、悩んだり、困ったりしていることを中心に「愛着障害の子どもへの支援」や「通常学級でつまずきの見られる子どもへの支援」に関する研修会等の事業を進めていくことが承認されました。



総会に続いての春期研修会では、長野県教育委員会スクールカウンセラーの小笠原博文先生から「その子のそのままを認める」と題してご講演いただきました。私たち大人は「いい子」を求めて、子どもを「がんばらせよう」としてしまいがちです。多くの先生方の感想の中にも、「子どもたちをがんばらせすぎたのではないか?」「まず、子どもを見て、良さを見つめるように過ごしたい。」「その子を直そうとするよりも、その子をわかる



うとすることが大切。」など、まさに本研究会のテーマに沿った、私たちが求めている内容の研修会となりました。

夏期研修会は、七月二十八日(土)和歌山大学教育学部の米澤好史先生から「愛着障害の理解と愛着の問題を抱える子どもへの支援の実際」と題して、愛着修復のプログラムについて研修しました。愛着の問題が起こる場面を具体的に示していただき、それに対しての間違ったアドバイスや対応についてお話いただきました。子どもへの言葉かけ、「主導権をとる先手」の対応など実践につなげていける内容でした。

秋期研修会は、十月二十七日(土)大下条小学校の堀内澄恵先生から「通常学級にいる困っている子への気づきと対応」学習面を中心にと「という演題でご講演いただきました。文字学習入門期の指導の大切さ、眼球運動に課題がある子への指導を中心にお話いただきました。実際に教室にいる子ども

もたちがどのように困っているのかを体験的に知ることができ、具体的な支援のあり方を学ぶことができました。



会員の先生方のご協力により本年度の事業を推進することができたことに感謝申し上げます。一年間ありがとうございました。

## 夏期研修会報告

夏期研修係 清水賢一郎

去る七月二十八日、和歌山大学教育学部教授米澤好史先生をお招きして、「愛着障害の理解と愛着の問題を抱える子どもへの支援の実際」と題してご講演いただきました。

数少ない「愛着障害」の専門家でおられる先生は、小中学校はもちろん児童養護施設など日本中の教育現場を飛び回り、子どもたちと職員の支援に奮闘されておられます。そんな、超多忙な先生をお招きして、三十名を超える先生方にご参加いただき、一日充実した研修を行うことができました。



発達障害の理解と対応は確実に進んでいます。しかし、時に効果的な支援ができず、悩み、停滞してしまいうこともあります。

今回の講演は、そんな私たちのニーズや困り感に込めていただけるものでした。

「効果的な支援ができない場合や、『この子は本当に発達障害なの?』といった場合、それは『愛着障害』の可能性があるということ。発達障害が先天的脳機能障害なのに対して、愛着障害は後天的環境によって生ずること。子どもが危機に陥った際に『守ってもらえ』と感じる『安全基地』、危機でなくても一緒にいるだけで安心できる『安心基地』という二つの基地機能を養育者は果たす必要があること。愛着の問題を抱えた子どもへの支援。愛着障害への対応。愛着障害への支援。」など実践例と結び付け、丁寧に、分かりやすく、納得のいくご講義をいただきました。



きつと参加された先生方は、気になる子ども一人一人の顔や言動を思い浮かべながら、「あの子のあの言動は、愛着の問題に起因

しているのかも知れない。あの子は愛着障害なのかも知れない。」と、子どもも理解を深めるとともに、今後の対応や支援の方向について、目の前がパツと拓けた感覚を味わわれたことと思います。

「愛されることで人格が形成される」、「愛することは養育・教育の根本である」ことを再認識する一日となりました。

来年度も、夏期研修会の講師、

米澤 好史先生に決定！

■日時 七月二十七日(土)

午前3時間、午後3時間

■会場 教育会館(いなっせ)

ぜひ予定に入れておいてください。

## 秋期研修会報告

秋期研修係 中山和代

### ◆講師

堀内 澄恵先生

阿南町大下条小学校 校長

### ◆演題

「通常学級で困っている子どもの

理解と支援」

◆日時 十月二十七日(土) 3時間

◆会場 上伊那教育会館 大会議室

### ◆講演の内容から

まず、困っている子に気づくこと。「何でできないんだろう」と担任が考えること。「学習の苦手」に手を打つこと。

「読み書き」の困難さが、子どもの「学習意欲」を失わせる。読みの「流暢性」

が大事。読みスピードが遅い原因を探り、手立てを講じ、読みスピードを上



げるトレーニングをする。文字学習入門期(一年生)は、個々の状況の違いを踏まえた丁寧な指導が必要。

使いやすい教材教具の工夫。机の位置・ノートの選択・理解を促す言葉かけ等、できる状況・環境作り。「やらない」のではなく「できないのではないか」と考えたり、「理解できない」ではなく「理解できる方法で教えているか」と振り返ったりすることの大切さ。

この他にも、多くのことを教えて頂きました。「その子の困っていることにピンポイントの指導を」するために、私たちは学び続けていきたいと思います。

来年度も堀内先生に講師をお願いする予定です。多くの先生方のご参加をお待ちしています。

### ◆※参加された先生方の感想から

- ・学級のあの子この子を思い浮かべていました。ボール運動と描画と漢字が苦手なY君のこと。明日早速、コーディネーターの担当職員に相談し、必要な手を打っていきたいと思います。

- ・高校の現場でも、共感できる事例が多かった。今回の研修では、困



難さのある生徒との関わり方や困難さへの向き合い方について気づかされる点が多くあった。実際に活かして、

生徒の成長につなげたい。

- ・学習の時間が多い学校では、やはり子どもの学習のつまずきを改善してあげることがとても大切であり、問題行動の未然防止につながると感じました。子どもの学習の理解度について、周りの大人はもっと目を向けるべきであると思いました。

- ・毎回、とても参考になる内容で、明日からすぐやってみようと思える。これまでの取り組ませ方や声かけが何の効果も無かったんだなあと反省させられた。その子の特性を早期に見極めてあげたいと思った。

